

民間支援まちづくりファンド 活動紹介

事業名 ちいさな本の家

1. 活動の目的

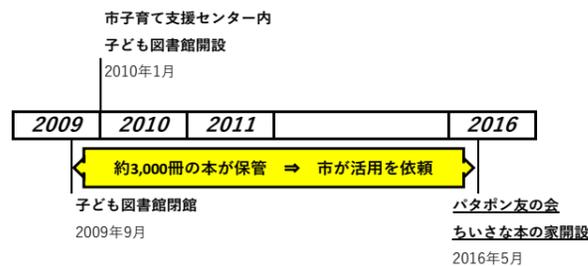
1. 子どもの本の図書室として、地域に読書文化を発信していくことで、本を通じた地域のお出かけ場所とする。
2. 市内外の人に来てもらえる場所とすることで、沼津ゆかりの文学にも触れ、読書を通じ豊かな文化の町であることを知ってもらう。
3. 子どもだけでなく、一人暮らしの高齢者も、気兼ねなく出向ける場とし、多くの世代の垣根を超えた、交流できる場所とする。

2. 活動を始めた経緯

イトーヨーカ堂に設置された子ども図書館が閉館し、機能の一部は子育て支援センターへ引き継がれましたが、残りの約3,000冊以上の本の活用を市から打診され、会を立ち上げることとなりました。



子育て支援センター
ぽっぽ パタポン



子育てセンターの図書室の名前が「パタポン」であったことから、団体名を「パタポン友の会」とし、有志による活動を2016年5月から開始しています。施設は所有者の方の善意により、無償でお借りしています。

4. この活動を通じてつながることができた方々

◆ASHITAKA LOCAL MARKET

愛鷹地区を拠点とし、「地域の個性を楽しむ」「住みたいまちは自分たちでつくる」を目指し、年1回地元根差したマーケットを開催。

本の読み聞かせの出張や、開催場所に本を持っていき休憩所として出店。

◆伊藤忠商事（伊藤忠記念財団）

繊維、機械、金属、エネルギー、化学品、食料、住生活、情報、金融の各分野においては幅広いビジネスをグローバルに展開する大手総合商社

財団が実施する、東日本大震災や豪雨災害などで被災した地域の学校などに本を寄贈する「子どもの本100冊助成」事業により、蔵書を提供を受けた。

◆絵本専門店グリム

沼津市にある絵本専門店。ロングセラーの絵本、話題の新刊、昔話絵本、赤ちゃん絵本、幼年文学や児童文学も取り揃えがある。

グリムさんが沼津でお店を始めるにあたって、部屋作りのアイデア提案をした。



- 団体名 パタポン友の会
- 代表者 山田 由美子さん
- 活動PR <https://twitter.com/bunko>
- 活動場所 沼津市東原651-99



3. 活動内容

1. ～助成時の活動について～【平成28年度：スタート支援/平成29年度：ステップアップ】



- ・月1回の定期的な活動として、おはなし会、工作会の実施
- ・(株)童話屋代表 田中和雄さんを招いた講演会や親子三世代が参加したワークショップなどを開催

2. ～現在の活動について～（令和3年12月現在）

- ◎毎週土曜日に開館し、子育て世代や高齢者世代の交流の場となっています。
- ◎1回5～10人程度の利用者がおり、登録している6名のスタッフが交代で2～3人が常駐しています。
- ◎蔵書は各スタッフが持ち寄り、伊藤忠商事の「子どもの本100冊助成」制度等を活用し、合計4,000冊に増えました。
- ◎会の運営はスタッフによる会費と利用者からの好意による協賛金により、光熱水費や開催する講座の講師への謝礼を賄っています。



5. この活動を通じて感じたこと

◎地域の方の居場所になっていると実感しています。本を借りにきたもの同士から、ちょっとした会話をし、何度か同じ顔を見て、気軽に利用できる場になっています。利用者には昔からの常連さんも多いですが、まちづくりファンドを利用して開催した講座に来て下さったお客さんが、県外や近隣市町から今だに、足を運んでいただいています。

◎この活動を通じて確信したのは、今の本の家は、「本があるから」行きやすく来てくれるんだな、と感じました。図書館はそもそも一人で気軽に立ち寄り場所なので、高齢者の方もおひとりでもこの施設に本を求めて来てくれています。もしかしたら、本が目的ではなくても、ここにいれば誰かがいて、話ができる、みんなの喜ぶ顔が見える、この活動を続けて良かったと思える瞬間です。

6. 今後の活動について

◎まずはこの会を維持、継続していくことが目標です。コロナ前実施していた、読み聞かせやお話会も現在は出来ていないので、感染が落ち着いて早く再開したいです。

◎建物の2階部分はこれまで本を置かず、お話会やかるたしかやっていませんでしたが、2階にも本を置くことで、図書室としての機能を増やしたいと考えています。